

道徳学習指導案

指導者 川本 美紀子

- 1 日 時 平成 24 年 6 月 25 日 (月)
- 2 学 年 第 1 学年 1 組 19 名 [1 年 1 組教室]
- 3 主 題 名 頑張る心 [1 - (2) 勤勉努力]
- 4 資 料 名 うかんだ うかんだ (出典「みんななかよく」東京書籍)

5 主題設定の理由

- 児童が自立し、よりよく生きていくためには、自分がやらなければならないことはしっかりとやりぬくことが大切である。そのためには、最後まで粘り強く取り組み、努力し続ける忍耐力が必要である。自分で目標を立て、それに向かってがんばろうという気持ちはだれにでもある。しかし、実際には、目標は決めても実行が伴わないことが多い。努力することは、つらく苦しいことであるが、それを乗り越えていこうとする気持ちや態度、行動が大切である。自分で立てた目標を、苦しさを乗り越えて成し遂げた喜びは大きいものである。その喜びを土台にしてさらに高い目標に向かって努力しようとする意欲を育てていきたい。
- 本学級の児童は、何事にも意欲的に取り組むことができる。入学して 3 カ月。係や当番の仕事、ひらがなや足し算の学習など、自分で進んでチャレンジしようとする姿勢も見られる。今まで食べられなかった野菜が、食べられるようになったり、形をきれいに整えて書くことができなかつたひらがなが、整った形で書くことができるようになったりと、できるようになろうと取り組む姿も見られる。しかしその反面、ちょっと難しそうな課題や、やったことのない課題に直面したときに、すぐに助けを求めたり、行う前から「できない」「むり」と投げ出したりしてしまう傾向もみられる。児童は、できるようになるためにがんばることが大切だとは感じてはいるものも、それが行動に結びつきにくいこともある。それは、努力することのしんどさを乗り越えようと頑張り続ける力が弱いこともあるが、目標を達成したときの充実感や達成感を感じる経験が少ないためではないかと考える。苦しみながらも努力した結果、成し遂げることができたとき「がんばってよかった」という喜びや「がんばればできる」という達成感を何度も感じさせることで乗り越えようとするようになるのではないかと考える。
- 本資料は、プールでもぐるることができなかつた主人公が、繰り返し練習してできるようになり、さらなる目標を立ててがんばろうとする姿が描かれている。水泳指導が始まるこの時期にこの資料を用いることで、より主人公の気持ちを共感的にとらえ、主人公に約割取得して考えることができると考え、本資料を選択した。

指導に当たっては、主人公の「ぼく」の気持ちに寄り添いながら学習を展開する。基本発問では、できなかつた悔しさや恥ずかしさとともに、練習中の苦しさに共感させたい。苦しくて、もうやめたいと思いつつも、できるようになりたいという思いで何度も頑張った練習中の主人公の心情に共感させたい。そして、中心発問では、家に帰った後の「ぼく」の気持ちを問う。母親に何と話したか問うことで、できるようになってうれしかったことだけでなく、「泳げるように

んばろう」と、次の目標への意欲を持っていることに気付かせたい。その際に、児童に「ぼく」のお面をかぶらせ、実際にお母さんに話をするように発表させる。お母さん役を教師がすることで、児童の発言に対して問い返ししながら、ねらいとする価値に迫りたい。展開後段では、今まで、自分が苦しくてもがんばってできるようになったことを発表させ、児童同士で認め合う場を設定する。児童同士で認め合うことで、自分もがんばろうという意欲を持たせていきたい。さらに終末では、教師の子ども時代のエピソードを話し、苦しくてもがんばろうとする意欲を高めていきたい。

6 準備物

挿絵 お面 洗面器

7 ねらい

「ぼく」が、「できるようになりたい」と思い、努力した結果、できるようになったときの気持ちを考えることを通して、自分の目標に向かって、一生けん命努力しようとする道徳的態度を育てる。

8 本時のポイント

家に帰って、お母さんに話すときに、より「ぼく」の気持ちに寄り添いやすくするために、お面をかぶらせ、お母さんに話すように発表させる。その際に、教師がお母さんの役になり、問い返ししながら、ねらいとする価値に迫りたい。

9 指導過程

段階	学 習 活 動	主な発問と児童の心の動き	指導上の留意点
導入	1 学習や運動、遊びなどで、もっと上手になりたいと思っていることを発表する。	○上手になりたいのはどんなことですか。 ・字がきれいになりたい。 ・計算が速くできるようになりたい。 ・のぼりぼうの上までのぼれるようになりたい。 ・サッカーがうまくなりたい。	○より具体的に想起できるように問う。
展開前段	2 資料「うかんだうかんだ」を読んで、話し合う。	○「くやしい」と思ったのはどうしてだと思いますか。 ・やりたいのにできない。 ・できるようになりたい。 ・恥ずかしい。 ・自分だけでできないのがいやだ。 ○洗面器やお風呂で練習しているとき、「ぼく」はどんなことを心の中で思ったでしょう。 ・もうやめたい	○こわくて首までしか入れない「ぼく」を教師が演じることで、主人公の「くやしい」気持ちに寄り添わせる。 ○吹き出し型に板書することで、すぐにはうまくいかずに悩んだ

		<ul style="list-style-type: none"> ・ 苦しいけど頑張るぞ ・ お母さんが見てくれているから頑張ろう。 ・ 練習すれば絶対にできるようになる。 <p>◎ 「ぼく」は家に帰ってお母さんにどんなことを話したと思いますか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 練習の通りやってみたら、うかべたよ。 ・ みんなに拍手をしてもらってうれしかったよ。 ・ 苦しくても練習をがんばってよかったよ。 ・ ぼくだってやればできるんだ。 ・ 今度は泳げるようになるまで練習するぞ。 	<p>り苦しんだりする「ぼく」の心情に共感させる。</p> <p>○ 「ぼく」の気持ちに寄り添わせるために、「ぼく」のお面をかぶらせ、お母さんに本当に話すように発表させる。</p>
展開後段	3 これまでの自分を振り返る。	<p>○ 今までに、「ぼく」のように、「がんばってよかった」「この次もがんばろう」と思ったことがありますか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 最初は、給食が時間までに食べられなかったけど、少しずつがんばったら時間までに全部食べられるようになった。 ・ たしざんカードが最初は3分もかかったけど、今は、1分でできるようになった。つぎは、30秒でできるように頑張ろうと思った。 ・ サッカーでリフティングが1回しかできなかったけど、毎日練習したら5回できるようになった。次は10回できるように練習したい。 	○ 児童がなかなか想起できないときには、運動会の練習や計算カードの練習の写真を提示する。
終末	4 教師の説話を聞く。		○ 決めたことに向かって努力してきた中で、の苦しさと達成できたときの喜びについて話す。